

取締役会の実効性に関する評価結果の概要

1 評価方法等

当社においては、取締役へのアンケートを実施し、アンケートと社外取締役ミーティングにおける議論を通じ、取締役による自己評価に基づく実効性評価を実施いたしました。

2 評価結果等

取締役会は総じて十分に機能していると評価しました。

2021年5月策定のグループ中期経営計画「JPビジョン2025」は、3年を目途に見直しを行うとしており、この見直しの議論をはじめ、当社の重要な経営課題について、取締役会で十分な議論ができるよう、早期かつ複数回に亘って議論の機会を設けております。また、取締役の経営判断に資する重要な情報は速やかに取締役に提供する等、取締役会の監督機能は十分に機能したと考えております。

取締役会の議事については、従前からの取組として、定例的な報告事項は事前説明を行った上で、取締役会において議長が一括で報告する、といった議事運営の工夫を継続しており、いずれも議論の活性化に役立ったと評価しております。

また、引続き社外取締役に事業の現場を視察する機会を設けたほか、昨年度は、事業の現状と課題等に関して勉強会を開催し、当社グループ事業の理解の深化に役立ったと考えております。

今後の課題としては、社外取締役がその役割を発揮できるよう、メリハリの効いた議事運営、経営に大きな影響を与える事項や課題に関する審議及びそのPDCAサイクルのフォローアップの一層の充実、当社の取締役に必要な知見を深めるための機会の拡充、社外取締役間の意思疎通の円滑化などが挙げられます。

このような課題に対応するため、中期経営計画や年度計画の進捗に係るPDCAサイクルのフォローアップに加え、引続き、議案の精査や資料の記載内容の改善に努めるとともに、取締役の現場視察や勉強会の充実等に取り組んでまいります。